

第1回 新たな図柄入りナンバープレートの導入に関する検討会
議事概要

1. 日 時：令和2年3月26日（木）16：00～17：45
2. 場 所：第29興和ビル別館（4F）
3. 出席者：石田委員、北嶋委員、竹岡委員、寺井委員、吉田委員、
岩田委員、岡安委員

4. 議事（概要）

- （1）資料1の設置要領に基づいて「新たな図柄入りナンバープレートの導入に関する検討会」を自動車局に置くことにつき、委員の了承を得た。
- （2）当該検討会の座長として石田委員が選任された。
- （3）資料2～5の説明後、議論を行った。

（委員からの主な意見）

- 国土交通省が候補として掲げている「テーマ」について、どちらかといえば「寄付金の使途」に近いものであると感じる。図柄入りナンバープレートの「テーマ」というのは、国民が一致団結出来るようなシンボルやフレーズがよいのではないか。
- 図柄入りナンバープレートを新たにデザインするのであれば、国民が付けたくなくなるようなデザインである必要がある。クオリティの担保が取れるものを作成するならば、プロのデザイナーに頼むという方がいいのではないか。
- 図柄入りナンバープレートの普及を目指すのであれば、国民が自動車に付けたくなくなるものである必要がある。「テーマ」より「デザイン」から考えるという方法もあるのではないか。
- 全国版の場合はどこに寄附できるのか、助成を募るのであれば明確に条件定義をするなど、寄附の使い道も整理する必要があるのではないか。
- アンケート結果から、「テーマ」と「デザイン」の相関性は図柄入りナンバープレートの普及促進という側面からはそれほど重要ではないと考える。
- 「テーマ」と「寄付金の使途」は必ずしも1対1の関係性である必要性は無いが、あまりにもかけ離れた使途は避けるべきではないか。

- 「観光振興」「防災・減災」「バリアフリー推進」「エコ推進」などに広く活用出来るような、例えば「美しい日本」「日本を元気に」「災害復興で頑張れ」などというテーマでも良いのではないかと。
- 数が出ているナンバー、出していないナンバーがある中で、出していないナンバーを抱え続けるのはそれが不良在庫となり、コストアップの要因となる。従って、同時期に交付する図柄ナンバーは一種類として、何年か毎に「デザイン」や「テーマ」の見直しをすることの方が良い。
- 図柄入りナンバープレートを付けるかどうかは、そのデザインが格好良いかどうか、自動車に似合うかどうかが一番大きい。国民が付けたいと思う様な「デザイン」のものを作成することが必要であり、そのためにはプロのデザイナーから複数案提案してもらい、そこから国民の意見を踏まえつつ「デザイン」を決定するという方法が良いのではないかと。
- プロのデザイナーに複数案依頼するということであれば、(公社)日本グラフィックデザイナー協会が良いのではないかと。デザイナー業界では日本で一番大きい組織であり、著名なデザイナーが多数加盟している協会である。
- 新たに図柄入りナンバープレートを導入するにしても、導入当初に盛り上がりがあるが、徐々に下がっていくというようなことにならないような設計の仕方が必要。自動車ディーラーや整備工場を巻き込んだプロモーションや、期間限定にする等、国民の付けたいという気持ちをかき立てる取り組みも必要ではないかと。
- 図柄入りナンバープレートの取り付け割合の傾向について、新車販売台数に占める割合や、地方版図柄の地域差の要因について深掘りした分析・考察をお願いしたい。

以上